



企業のセキュリティ対策は社員の意識づけから

IPA (情報処理推進機構)
「情報セキュリティ10大脅威 2021」

- 1位 ランサムウェアによる被害
- 2位 標的型攻撃による情報漏洩
- 3位 テレワーク等のニューノーマルな働き方を狙った攻撃

脅威トップ2の主な手口は
『メール』
「メールの添付ファイル」
「メール本文のリンク」
を巧妙に開かせる



エヌアイシ・オートテック株式会社 本社外観

エヌアイシ・オートテック株式会社 様

(所在地：富山県富山市)

エヌアイシ・オートテック株式会社様は、国産初のアルミ構造材「アルファフレームシステム」を自社開発し、アルファフレームを使用したクリーン機器やFA・省力化装置等の設計・製作・開発を行っておられます。

今回は、標的型攻撃メールを想定したメール訓練とセキュリティセミナーを社員様向けに実施された事例について、管理部管理グループ管理チーム チームリーダー 西田 晋介 様にお話を伺いました。(以下、敬称略)

検討に至るまでの経緯を教えてください。

西田：当時は標的型攻撃メールが流行していて、社内での対策が重要との声が挙がっていました。取り組みとして、まず社員に対するセキュリティ教育が必要と考えましたが、社内だけで実行しようとする準備に時間がかかってしまうので、外部の専門業者に委託することにしました。以前からHCSさんの担当営業の方が足繁く通ってくださっていたので、ご来社の際に相談したところ、HCSさんが「メール訓練」と「セキュリティーセミナー」をサービスとして提供されていると聞き、検討を始めました。

導入の決め手は何だったのでしょうか？

西田：当社がセキュリティ教育に対する課題を抱えていたところにHCSさんの担当営業の方がタイミングよく来てくださったこともあり、話はスムーズに進み、迷うことなく導入が決まりました。メール訓練と連動する形でのセキュリティセミナー実施をご提案いただき相乗効果が期待できましたし、費用が安価だったことも決め手となりました。

導入してみていかがでしたか？

西田：最初の取り組みは、2019年3月に実施したメール訓練です。当社管理部で予め訓練用の疑似メールの件名・差出人表示・本文などを検討し、訓練日時を決め、メール配付先アドレスリストを作成します。これらの情報をHCSさんにお渡しすると、訓練当日HCSさんのメール訓練システムから疑似メールが配信されます。メール本文の内容は、受信者の危機感を煽り、本文中のURLリンクのクリックを促すものです。受信者は不審なメールを判別できるか試されるわけですが、この時は200名の社員に疑似

メールを配信しました。各社員のURLリンクのクリック有無は、一覧で確認できます。この取り組みにより、社員には不審メールに対する意識づけができたと感じました。ただ、メール訓練運営上の反省点があり、社員から管理部に「不審なメールが来たが、どうすればよいか？」という問い合わせがあり、訓練なので種明かしするわけにもいかず、回答に困りました。

この取り組みの翌月である2019年4月にメール訓練のフォローアップも兼ねたセキュリティセミナーを実施しました。新入社員と各部署の代表者が参加し、標的型攻撃メールの脅威や、SNS利用によるトラブルといった、身近な内容でHCSさんの講師の方にお話していただきました。この内容には、管理部管理グループ長と各部署の選出者で構成されるシステム開発分科会の意見を反映していただきました。

今後の展望を教えてください。

西田：2020年4月にもセキュリティセミナーを実施し、今年の4月にも実施予定です。いずれも新入社員向けに実施していますが、今後もこの取り組みを継続する予定です。

貴重なお話ありがとうございました。




未来につづく
機械をつくる。

NIC

ALFA FRAME SYSTEM

エヌアイシ・オートテック株式会社

富山本社/流杉工場
〒939-8032 富山県富山市流杉255 TEL:076-425-0738



セキュリティ脅威への
防衛力向上には、
技術的な対策だけでは不十分

従業員の意識向上

が重要です

HCSが
サイバー攻撃メール訓練を
ご支援します！

Solution

オーエンス
Oens
サイバー攻撃メール
訓練サービス

- ▶ 訓練用の不審なメールを送信
- ▶ メール本文はお客様の業務に合わせた内容で作成可能
- ▶ 訓練結果内容をご報告

自社の実態把握に！

脅威への意識づけに！

セキュリティ教育の浸透に！

プリンタ消耗品
事務用品の購入は

Net23

が便利です

<https://www.coworco.com/hcs>

フレッシュな顔ぶれ勢揃い



4月1日に入社式を執り行い、グループ合計30名の新入社員を迎えました。みな緊張した面持ちでしたが、希望を胸に社会人としての第一歩を踏み出しました。社内研修を通じ、専門技術の習得を目指します。今後の活躍にご期待ください。

また組織改正として、「BX(ビジネスプロセスフォーメーション)営業室」「BPO営業室」「サービスコンタクターグループ」を新設するなど、新たな体制でスタートを切りました。今後も貴社の全力パートナーとして、魅力的なご提案ができるよう努めてまいります。今後とも弊社をよろしく願います。

もっとつながる、もっと身近に!



『HCS NewsLetter』は、2004年5月に創刊してからもうすぐ発行第200号を迎えます。NewsLetter 編集室では、これまでを振り返り、今後について話し合いました。

『HCS NewsLetter』は、皆さまとHCSをつなぐコミュニケーションツールとして創刊。これまで、①ユーザ情報②新サービス情報③IT最新情報など、「皆さまのお役に立ちたい!」という思いから、様々な情報を発信してきました。

一方で「今のままでいいのか、しっかりお客さまのニーズに応えられているのか、もっと新しい取り組みが必要なのではないか」と、NewsLetter編集室メンバーの悩みは尽きません。今もまだ正解には辿り着いていませんが、私たちの思いは

常に「もっとお客さまの声を知りたい、もっと皆さまとつながりたい、もっとHCSを身近に感じて欲しい」というものです。

そこで今年度、まずご意見箱の開設によって、より皆さまの声を反映させたNewsLetter作りを目指します。また、創刊当初から続けてきたユーザ事例やIT最新情報の掲載はもちろんのこと、時にはHCSの取り組みや失敗談、裏話などを掲載することで、HCSの素顔もお届けしていきたいと思えます。ぜひ今後の『HCS NewsLetter』にご期待ください。

「HCS NewsLetterご意見箱」ができました

皆さまに役立つ情報の掲載を目指し、「HCS NewsLetterご意見箱(Webフォーム)」を開設しました。皆さまの「知りたい」「気になる」コト、掲載記事に対するご感想などをぜひ教えてください。弊社社員に対してもお気軽にお話しただけると嬉しいです。『HCS NewsLetterご意見箱』への投稿はこちら↑



HCSのよこがお



コーポレート本部
総合企画部 経営・システム企画 G
兼 活!コミュニケーション部(活コミ部)
くわな まさちか
推進役補 桑名 正親 さん

■現在の業務内容は?

社内コミュニケーション活性化を目的に、「人」「部署」「業務内容」を

知ってもらう手段として「コミュサイト」を開設し、動画を中心とした情報共有を行っています。内容は、「プロジェクト紹介」「新入社員紹介」「高度資格取得者インタビュー」など多岐に渡ります。

コロナ禍でこれまで以上に部門間/拠点間のコミュニケーションが取りづらい中、今後も社内における情報共有の一翼を担えるよう頑張っていきたいと思えます。

■休日の過ごし方は?

ライブの臨場感が好きで、スポーツ観戦(バスケットボール『富山グラウジーズ』の試合)や観劇、落語など、ジャンルは問わず月に1回は会場に行っていました。最近はコロナ禍であまり行けず残念ですが、試合のインターネット中継や「スカパラ」のライブBDなどで、暫定的なライブ感覚を味わっています。



編集後記



『HCSのよこがお』でご紹介した「コミュサイト」。私が特に楽しみにしているのが、「NewFace(新入社員紹介)」です。経歴や意気込みを語るだけでなく、自分を動物や調味料などに例えて紹介するという面白い企画もあり、インタビューとの言葉の掛け合いにも注目しています。

運営側の活コミ部は、昨年6月に新設されました。社内コミュニケーション活性化による、働きやすい職場作りに取り組んでいます。機会があれば、活コミ部の取り組みも今後NewsLetterでご紹介していきたいと思えます。(まつお)

皆さまの「知りたいコト」をお聞かせください

より役立つ情報掲載のため、皆さまの「気になる」「知りたい」コト、掲載記事のご感想などをぜひお聞かせください。

『HCS NewsLetterご意見箱』への投稿はこちら→



全カパートナー



北陸コンピュータ・サービス株式会社

NewsLetter 編集室

TEL: (076)495-9824 HP: https://www.hcs.co.jp/